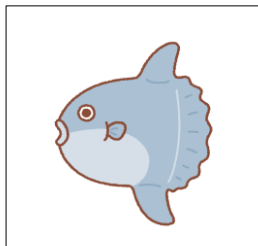


## 牧師室から（7. 5）

白くてきれいな歯が奥まで見えるほど良く笑う彼女は、50代には見えないくらい若々しい感じがする。彼女は聡明で、しっかり者で、家族や親戚の様々な反対にもブレない信仰を持っている。恵まれてなかった幼い時から頑張っ生きて来た彼女には、弱い者をいたわる優しさがある。しかし、それにもかかわらず、時々棘を感じさせる言い方で、周りの人と馴染めないところがあり、本人も悩んでいるよう。

時々、私と二人で話す時間があり、心を許して自分の身の上話をいろいろ聞かせてくれた。良くもこのようにたくましく生きていられるんだな、と抱きしめたくなる。

ある日、「先生、テレビにマンボウという魚が映し出されていました。あんな姿でよく生きていますね。本当に不思議です。大きな体が水の上で横になって、ぼっとして身を任せているように見えます。先生、私もマンボウになりたいです。」と沈んだ声で彼女は言った。そして私は言った。「では、マンボウになれば、いいんじゃないですか。主にすべてを委ねてマンボウのようにいればいいの。」あまり深く考えないで言った私の話ではあったが、それを聞いた彼女は突然目が覚めたように嬉しい声で答えた。「そうですね。それでもいいですね。」 イザヤ書 30 章 15 節の「・・・お前たちは、立ち帰って、静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある・・・」を二人で朗読し、マンボウ



のように生きていきたい彼女を祝してくださるよう彼女の手を握って祈りをした。その時から彼女は変わったようであった。明るく、足が軽くなったような清々しさが伝わる。

水族館やテレビでマンボウを見ると、どこかでマンボウのようにぼっとした感じで、主に甘えているような彼女の姿を想像して見ながら、私は独り笑いをする。 (鈴木善姫牧師)